



細江カトリック教会だより

初夏号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>



蒸し暑い日々が続いているので、体調の崩れやすい時期であります。皆様は如何お過ごしでしょうか。



6月を終えて7月を迎えました。6月はカトリック教会の伝統によって主イエスの聖心の月と呼ばれています。主イエスの聖心への信心は中世に始まり、聖マルガリタ・マリ・アラ

コクがこの信心についての啓示を受けた17世紀にフランスで広まりました。そして1856年に、教皇ピオ9世によって全世界で聖心の祭日にすることが定められました。聖心の信心は、教会において基礎となるものであり、キリスト教の中心といえるものでもあります。聖心は全人類に対する神の愛の象徴として主イエスの心臓を表し、その信心は主イエスの聖心に表される神の愛を思い起こし、その無限の愛のしるしである聖心をたたえるものとするのです。

7月は、イエズス会員として特別な祭日を迎えます。それはイエズス会の創立者聖イグナチオの祭日です。去年5月20日は、イエズス会は回心した戦士イグナチオ・ロヨラがパンプローナの戦いで被弾してからちょうど500年目にあたり、聖霊が彼をキリストに従う決意へと促した光栄ある瞬間を思い出し、そこから「実を結ぶ」ためにイグナチオ年を開始しました。今月の31日に、この特別なイグナチオ年は終わることになります。聖イグナチオの霊性を深めるために、また彼の霊操を実践するために、住田神父による霊性の講話を聞

いたり、百瀬神父による日々の霊操に参加したりしました。

ところで、今日は皆様にご紹介させていただきたいことがあります。それはイエズス会の聖心への奉獻です。

イエズス会の聖心への献身は、1872年、イエズス会総長ピーテル・ヤン・ベックス神父がジェズ教会に立ち、「奉獻の祈り」の文章を読み上げたときに正式に始まりました。1972年、ペドロ・アルペ総長は同じジェズ教会でのミサの説教で、イエズス会における主イエスの聖心への献身を新たにすることを再び表明しました。アルペ総長は聖心への献身を、1537年にラ・ストルタでロヨラのイグナチオが受けた霊的恩寵と一致させたのです。アルペ総長の祈りは次のように書かれています。

「天の父よ。[...]

私たちは、[ラ・ストルタでキリストは十字架をもって現れ、御父はイグナチオをキリストに仕える者となさったという体験をした聖イグナチオの従者として、] 今度もあなたに同じ祈りを捧げ、あなたの御子とともに置かれ、イエスが従順のために釘付けにされ、あなたとすべての人への愛のしるしとして脇腹を刺され、心臓を開かれた『十字架の旗の下』で奉仕するようお願いするものです。

私たちは今日、イエズス会の聖心への奉獻を新たにし、私たちのすべての忠誠をあなたに約束し、イグナチオとその仲間たちと同じ精神と同じ強さであなたに仕え、あなたの御子に仕え続ける恵みをお願いします。」

イグナチオの祈りを受けたおとめマリアの取り次ぎによって、また、イエス・キリストがその開かれた心の宝を私たちに与えてくださる十字架の前で、主を通して、主において、私たちは心の奥底から私たちの奉仕を捧げ、

もっと主イエスに仕えることができますようにお祈りしております。

ディン神父

*ディン神父さまは、9月から第三修練のためマニラに行かれます。神父さまのためにお祈りください。

キリシタン探訪 I

一毛利秀包と引地の君マゼンシアー

「下関カトリック教会100年の歩み 1995. 10. 1刊」によると、毛利秀包は下関の教会で受洗し、^{ひでかね}霊名シモンを得たとされています。受洗には黒田孝高(官兵衛)らの説得もあったようです。そのわずか2カ月後、禁教令を出した秀吉が、棄教するように命ずると、「殿下の御命令どおりにいたします」と答えていました。出陣で多忙のため信仰への関心は薄かったようです。

マゼンシアは、キリシタン大名大友宗麟の末女で、秀吉の命により毛利秀包と結婚しました。いつも健気で揺るぎない信仰を示していました。彼女には、偉大な徳操、信心、熱意の鏡である育て親のカタリナという乳母がおりました。この二人の婦人の説得は非常に熱烈であったので、秀包はついに折れて、自分が直面しているあらゆる障害と困難を断ち切ることを決意しました。マゼンシアの聴罪師であった修練院長ペドゥロ・ラモン師と日本人ジョアンから、改めて教理の説教を聞きました。信仰に立ち返ったのは彼のみならず、城の貴人たち36人がキリシタンになりました。このことはルイス・フロイス著「日本史」に『藤四郎(秀包)殿が立ち返ったことは、日本のイエズス会の全員に大いなる喜びをもたらした。というのは、彼はデウスの御助けによって、西国キリシタン宗団の頼もしい支柱になることが期待されていたからである』と記されています。

戦国時代、秀吉からも愛された秀包は、九州での戦功により5万5千石を加増され、久留米城主として13万石を領するに至りました。武勇の素質と誠実な人柄の、稀有の武将でしたが、関ヶ原で大敗し、帰途、銃で撃たれた傷

が悪化して破傷風に罹りました。

赤間関での療養の甲斐もなく、慶長6(1601)年35歳で生涯を終えました。惜しまれる若き武将秀包の死後、残された妻マゼンシアは、久留米を去って、滝部村久森に居住し、後に阿川毛利元景に次女が嫁いでいる縁で、阿川村引地の館に住み引地の君と呼ばれました。

父宗麟の死を知り悲しみの中、赤間関で秀吉の追放令(1587)により宣教師たちが去るのを不安な気持ちで見送りました。慶安元年(1648)4月25日に没し、豊田町江良の月山、神上寺付近の山中に葬られ、そこが引地の君の墓地となりました。

菊野 清一



地区だより VIII

2年前、コロナウィルスの感染が確認され、急激な増加、鎮静を繰り返し、第六波がすぎ、今、下関は沈静化した状態で推移しています。教会もミサのグループ毎の開催も解けて、ミサの中での歌は歌えるように(入祭と閉祭)。信徒の方も、新下関地区は高齢の方が多く(これはどの地区でも同じだと思いますが)、当初3週に一回の開催のこともあり、また教会への移動手段でも他人と接することを避けることもままならず、次第に教会への足が遠のいてしまっていると感じています。地区会の集まりも今は、ほとんど電話だけの連絡です。世間では「コロナ」に対応して、なるべく直接の接触を避けるような方策がとられています。私たちが外出時は「マスク着用」が当たり前の生活になっています。人の顔が見えません。人の行動が制限され、経済が停滞していても、どっこい人間はしたたかです。私が楽観すぎなのかもしれませんが、明けない夜はないので、今までの生活に戻れることを期待しています。それこそ「神様のみ心」に叶うものではと・・・

新下関地区 一信徒として

嬉しいお知らせ！

幼児の洗礼 6月5日(日)

聖霊降臨の主日、ヨゼフ酒井佑駆(さかいたすく)ちゃんの幼児洗礼が行われました。パパママ、おじいさまやおばあさま達、周りの皆さまの祝福と愛を受けて、もちろん神さまに見守られて健やかに・・・成長されることをお祈りします。



天使幼稚園の新任先生の紹介

<田中 ルイ>

今年度からすみれ組の担任をさせていただいています、田中ルイです。私は天使幼稚園の卒園児で、母園に務めることが出来てとても嬉しく思っています。これから子ども一人一人に寄り添える先生になれるように頑張っていきたいです。よろしくお祈りします。



<今浦 彩花>

今年度からばら組の担任をさせていただいています、新任の今浦彩花です。

たくさんの子どもと関わり、モンテッソーリ教育を学びながら、子どもと共に成長していきたいと思えます。よろしくお祈りします。

ベトナム青年の紹介

わたしは介護福祉候補者としてベトナムから参りました。ハーと申します。



現在、下関市の施設で高齢者の方々のお世話をさせていただいております。日本に来てから、あっという間に1年半くらい経ちました。毎日利用者さんと積極的に会話をし、レクリエーション

をしています。そのうち利用者さんが笑顔を見せて、ありがとうございますと感謝の気持ちを言ってくれるようになり、本当に嬉しかったです。日本に来て、友達や家族と離れて一人暮らしになりました。まだ、今の私は日本語の言葉遣いも苦手だし、全て見新しいものも多いし、寂しかったですが、先輩たちや同僚はいつでも優しく親切に教えてくださいましたので、今はだいぶ良くなりまりました。特に先輩を通して教会を知って、毎週日曜日に教会に行き、皆さんとミサに熱心に参加しています。ここでイエス様と皆さんに会って話しをすることができました。それは家族のように楽しさを感じられるようになりました。嬉しいです。今から色々とお迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくお祈り致します。

(ほぼ、原文のまま掲載)

*教会ではマスク姿で分かりづらいと思いますが、日本の信徒の皆さま、お声をかけてくださいね。



皆さん、こんにちは！

わたしはバンと申します。今年28歳です。

ベトナムのバックニンから来ました。日本に来てもう2年半になりました。日本でもミサに参加することができて本当に嬉しいです。



教会の皆さんがとても親切に接してくれて、本当の家族のように感じました。生活の中で何か困った時に、ディン神父様とみんなに手伝ってもらって本当に感謝しています。これからも宜しくお願いします。



ロクスひよりやま キッチンカーと



中井神父さまが率いる「愛の宅配便」。

今回はベトナムの青年達と一緒に綾羅木方面へ出店しましたが、彼女達は初めての経験でとても張り切っていました。

夕方、近くの海岸に立ち寄り、残った？少しのカレー（中井神父特製）を分かち合い、それがとっても美味しかった！

綾羅木の海岸は、静かな波の音と夕日がキラキラと輝いていました。そこで、中井神父の発案『夕陽に向かって、好きな人の名を叫ぶ！』と。恥ずかしかったけれど勇気を出してみんなそれぞれが大好きな人の名を叫びました。彼女達のほとんどは「お母さん～お父さん！」と。・・・遠く離れたこの地で頑張っている青年達を見守ってあげたい・・・と、こみあがる想いがありました。

彼女達のいろんな話しを聞く機会ができて、繋がりができたこと、寄り添うこと、多文化共生の大切さを肌で感じた一日でした。

近藤 かつみ

一緒にお祈りください！

＊ ウクライナで起きた戦争や世界各地の紛争に巻き込まれて、耐え難い苦痛と苦難と不安の中にある人々のために祈ります。

必要な支援の手が差し伸べられ、平穏な日々を取り戻すことができますように・・・切に切に願います。

また、世界各地の紛争や暴力で亡くなったすべての人と遺族のために祈ります。神のもとに召された人々に永遠の安息が与えられ、遺族の方々が慰めと生きる希望を見いだすことができますように。神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

（一日の終わりの時間、または夕食時に
ウクライナのために・・・お祈りしてください。

主の祈りとマリアさまの祈りをともに。

お願いします！）

† 帰天

・4/24 ヨセフ 磯谷健藏さん(新下関地区)
永遠の安らぎのなかへ



編集後記

・細江教会では、特にコロナ禍で生活が困窮している外国人留学生や就労者への物資等の支援の用意があります。遠慮なく申し出てください。また、皆さまのあたたかいお声がけをお願いします。

・労働教育センターの中井神父さまや橋本シスター、スタッフの方々が行っている子ども食堂「ロクスひよりやま」は、キッチンカーを稼働し、また子育て中のママさんや子どもたちへの様々な企画と支援もしています。

中井神父さまによる talklive も楽しみの一つです。どうぞお立ち寄りください。教会から日和山への階段は大変ですが、林神父さまはいつも散歩されて凄い！！

.....
何でも相談受付中・・・細江教会のディン神父、労働教育センター中井神父、教会総務（近藤）までご連絡ください。